

インフルエンザを乗り切る 広報げろ 2010.11

インフルエンザを乗り切る

インフルエンザ予防注射は受けましたか。夏以降も各地でインフルエンザ（A型）の患者が発生しており一年を通して注意が必要となっています。この冬も流行が予想されるインフルエンザへの心構えについてのお話です。

◎発熱、頭痛、のどの痛み等の風邪症状を引き起こすウイルスには色々ありますがインフルエンザは高熱、関節痛、筋肉痛など全身症状が強く、また、感染力が強いのが特徴です。

◎インフルエンザウイルスは一般細菌のように毒素を作りだすわけではありません。症状を引き起こす大きな原因は炎症反応です。低病原性とは鳥インフルエンザで使われる用語で、気道や肺にのみ感染を起こすもの、高病原性とは同様に全身の臓器に感染を引き起こすものとされています。また、強毒性とは鳥でも人でも全身の臓器に感染し重篤な症状を引き起こすものとされています。毎年流行する季節性のインフルエンザは気道や肺など一定の臓器のみに感染し弱毒性とされています。

◎インフルエンザの最も効果的な予防法は予防注射です。今年度は流行予測から季節性 A 型（A/H3N2）, B 型、新型（A/H1N1）の 3 種類のウイルスに対応したワクチン（3 価ワクチン）が使われ、13 歳以上は 1 回のみ接種となっています。

◎ワクチンの効力は約半年とされ、前回接種から 6 カ月以上たっていれば再度の接種が必要です。言うまでも無く接種ワクチン以外の型のインフルエンザウイルスには無効です。ワクチン接種を受けてもインフルエンザにかからないわけでは無く、かかっても症状が軽くてすむであろうという事です。

◎インフルエンザの治療の基本は安静、栄養、水分補給です。対症療法として解熱剤、去痰剤、鎮咳剤等を使います。細菌を殺す抗生物質のようにインフルエンザウイルスを直接消滅させるような薬はありません。細菌感染による肺炎などの合併症が疑われる場合のみ広範囲に効く抗生物質を使います。風邪薬や解熱剤はその種類によってはインフルエンザ脳症等の危険な合併症を引き起こすといわれているので医師の指示に従いましょう。

◎ノイラミニダーゼ阻害薬（タミフル・リレンザ・ラピアクタ）

インフルエンザウイルスは生きた細胞の中に入り込んで（感染して）増えます。増えたウイルスが感染した細胞から離れるのを抑える薬です。発症後 48 時間以内で、ウイルスが増えている時期に使用すると症状の軽減、治るまでの時間の短縮が期待できるとされています。この薬はインフルエンザウイルスを殺すわけではないのでウイルスは体内に残ります。A 型、B 型インフルエンザウイルスのみに効果がありその他の風邪には効果がありません。この薬の使用に際しては症状が出てから 48 時間以内に病院などでインフルエンザであることを検査で証明してもらう必要があります。

◎インフルエンザになったら医師の指示に従って適切な治療を受けるとともに熱が下がって 2 日間は休学や休業して感染の拡大を防ぎましょう。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦